

平成 26 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価

平成 28 年 1 月

札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市のアイヌ施策の推進状況について、平成 26 年度札幌市アイヌ施策年次報告書を基に、札幌市アイヌ施策推進計画の施策目標ごとに以下のとおり、検証評価する。

1 施策目標：市民理解の促進

～ 伝統文化の啓発活動の推進、教育等による市民理解の促進

(1) 26 年度事業の進捗

○伝統文化の啓発活動として、i) 講話や楽器演奏、伝統舞踊などを紹介する小中高校生団体体験プログラム（参加校 50 校、参加者 3,692 人）、主に大人を対象にアイヌ文様の刺繍や木彫り、料理教室などを行うアイヌ文化体験講座、アイヌミュージック、古式舞踊、ムックリ・刺繍等製作体験などを行うアイヌ文化交流センター月間イベント（開催回数 21 回、参加者 958 人）、ii) アシリチェプノミ「新しい鮭を迎える儀式」など、季節に合わせた行事、iii) 札幌駅前通地下歩行空間を活用した伝統文化体験やパネル展（来場者数 10,171 名）などを計画どおり実施した。

○また、「自然」をテーマとしたアイヌ民族を象徴するモニュメント（タペストリー）を JR タワー 1 階西コンコース及び札幌市役所本庁舎に設置し、そのオープンセレモニーでは、アイヌ伝統舞踊を披露するなど、多数の市民がさまざまなアイヌ民族の伝統文化や歴史に触れることができた。

○教育等についても、25 年度に引き続き、小学 4 年生及び中学 2 年生の授業において、副読本等によりアイヌ民族の歴史と現在について学習を行ったほか、札幌市職員や教職員を対象に各種研修等を行い、施策目標である「市民理解の促進」を進めることができたと認められる。

(2) 25 年度事業の検証評価時の意見の反映について

○委員からの個別意見として、小中高校生団体体験プログラムは、同じ学校が継続的に参加すること、及び参加校数を増やすことが必要であるとの意見があった。

各学校に対して参加の働きかけを行い、26 年度は前年度から 6 校増の 50 校が参加した。そのうち 25 年度と 26 年度に継続して参加した学校は 33 校となっている。

2 施策目標：伝統文化の保存・継承・振興

～アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進、伝統文化活動の推進

(1) 26年度事業の進捗

○歴史の尊重に関する施策として、中央区の埋蔵文化財センターの埋蔵文化財展示室をリニューアルオープンし、アイヌ文化期の出土資料を新たに展示した。

○アイヌの伝統的生活空間再生事業（イオル再生事業）では、清田区内の市有地において、アイヌ民族に関係の深い自然素材を栽培及び育成管理を行うとともに、栽培用地を拡張造成（面積 1,000 m²）し、総面積を 2,000 m²としたほか、25年度に引き続き、文化伝承に有効な体験講座（民具づくり、伝統料理調理、野山での子どもの遊び）を行った。（開催回数 6 回、参加者 110 人）

○アイヌ文化交流センターでは、伝統家屋や生活民具の継続展示や伝統文化活動を披露するイベント等を開催した。同センターの来館者数は 47,768 人で、25年度より減少した一方、展示室の観覧者は 18,138 人となり、前年より千人以上増加した。このように多数の方が参加できる機会を様々に設けた取組により、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」が図られたと認められる。

3 施策目標：生活関連施策の推進 ～産業振興等の推進、生活環境等の整備

(1) 26年度事業の進捗

○さっぽろ雪まつりの開催と連動して、民芸品の展示販売スペースでの試行販売を札幌駅前通地下歩行空間で開催し、約 10,000 人が来場した。

○教育・就職・住宅・医療介護等の相談に対応する生活相談員 2 名・教育相談員 1 名を配置し、26年度は約 2,100 件の利用があったほか、アイヌ民族の児童・生徒に対する学習支援として、夏休み、冬休み期間中に、教育関係者やボランティア等による学習会を実施し、延べ 17 名の参加を得るなど、計画に沿った取組が行われたと認められる。

(2) 25年度事業の検証評価時の意見の反映について

○委員からの個別意見として、産業振興を推進するため、工芸品等の展示販売スペースの設置を検討すべきであるとの意見があった。

26年度も引き続き上記に示した試行販売を実施した。

○同じく、生活相談や教育相談を通じて、アイヌの人々が置かれている状況の把握や情報収集に努め、問題点を整理することが必要であるとの意見や、アイヌ民族に対する経済的、社会的支援を充実させることが必要であるとの意見があった

が、具体的な成果を得られていないことから、引き続き取り組みや検討を行うことが必要である。

4 25年度の検証評価において出されたその他の意見について

○共同利用館は老朽化が進んでいるので、対策を検討すべきであるとの意見について、26年度は電気設備の漏電調査を行った。

5 今後について

○委員からの下記の個別意見についても適切に検討することが求められる。

- ・小中高校生団体体験プログラムに多くの学校が参加するために、バスを借りる費用の補助が必要である。
- ・アイヌの伝統的生活空間再生事業（イオル再生事業）について、現在の事業を継続しながら、小金湯のサッポロピリカコタンの近隣に、里山や水辺空間を含んだイオル用地を確保することが必要である。